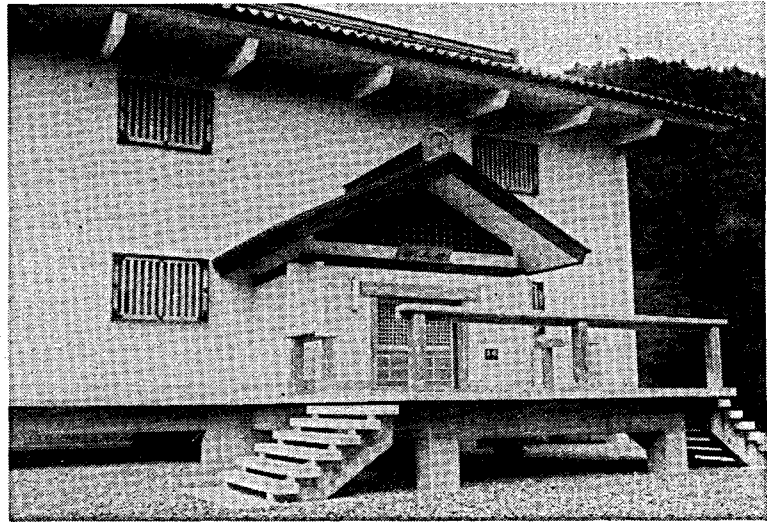


# 岐阜の博物館

〒483 羽島郡川島町  
エーザイ工園  
内藤記念くすり資料館内  
岐阜県博物館協会  
責任者 吉田幸平  
振替 名古屋 70106

館・園紹介  
No 28

国府町立  
歴史民俗資料館



〒509-41 吉城郡国府町西門前 TEL(057772) 3111

## 町民挙げての協力の結晶，ふるさとセンターへどうぞ！

民俗資料は、それを生み出した自然風土の中、その地方・地域にあってこそ、祖先びとの生活を物語る資料として生きてくることは当然のことである。貴重な歴史・民俗資料が、ふるさとを離れて関係のない他へ流れ出ることを心配し、収集保存することの重要性が、町民の中からも叫ばれ、国府町では町の事業として収集されたのが昭和45年頃、昭和48年には、文化庁や県からの補助金を得て郷土館と民俗館が建設された。国府町民挙げての協力事業で、労働奉仕、調査収集と、文字通りふるさとセンターの完成であった。

山緒ある安国寺の地に、鉄骨二階建、延面積340㎡の郷土館、木造二階建、延面積388㎡の民俗館があり、郷土館には重要文化財の彫刻、工芸品、書籍、考古資料等約100点が展示され、特に岡村文庫の一室が設けられている。郷土史大家岡村利平先生が、生涯をかけて筆写された飛騨関係の史料186冊をはじめ、岡村先生秘蔵の書籍等が保存されている。

また広瀬大日出土品「装飾高坏」は全国的にもここにひとつだけという貴重なもので、五世紀頃朝鮮新羅での製作品といわれ、奈良時代に渡来したものと考えられている。その他、円空作彫刻の中でも逸品と言われる観音立像、千手観音、竜頭菩薩三体、奈良朝風俗絵瓦など貴重品は見逃がせない。

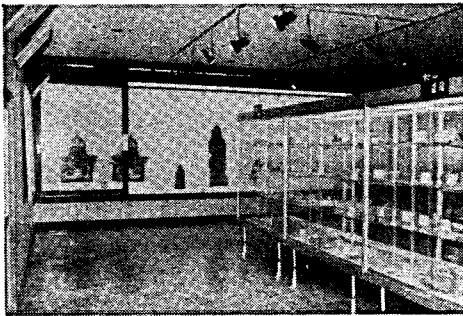
いっぽう隣接した民俗館には、ふるさとの祖先びとから伝わった数々の生活用品約1,000点が展示され、尊くもすばらしい人間の歩み、生活の知恵に触れることができ、物質的な豊かさと便利の中にドブツリつかった現代人に、何か胸をつく感動を訴えてくれる場所となっている。

館長兼教育長であられる石田秋雄先生は、教育者であるとともにかけがえのない飛騨の植物学者で

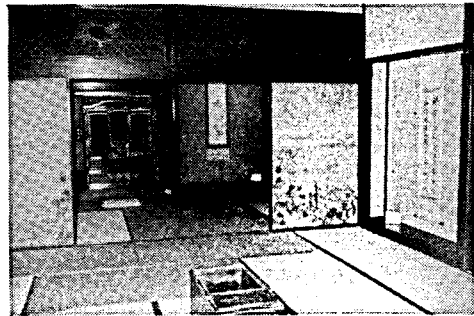
あり、温和な人柄の中に、植物研究への絶えない情熱を秘めておられ、周辺一帯を郷土植物園にすべく日夜努力されています。五ヶ年計画の進行中で、ここでも町内の多くの方々からの樹木の寄附、古川営林署の後援と、町あげての環境づくりが進められています。昨年10月には、郷土植物園利用の手引きとして、「歴史・伝説の上みる飛騨の植物 — 文学篇 —」(P. 346)なる立派な書物が出版されました。上質紙を使った写真、絵入りの豪華本で、引続き実利篇、物語篇の出版計画も進行中、実物学習の場とその手引書に恵まれた国府町民は幸せというほかはない。

飛騨は観光ばかりで、四季を通して賑わってはいます。しかし、マスコミの宣伝に流され、表面的な名所・旧跡めぐりだけに終始することなく、静かなこの地を訪れて、じっくり国府町の歴史民俗、そして植物を、実物を目の前にして学んでみようではありませんか。旅は、あなたが個性的に創造する行動的体験のはずです。

国鉄飛騨国府駅より徒歩約40分、タクシーで約10分。11月から翌年3月までは閉館、その他は土・日曜日開館。平日は国府町教育委員会まで連絡問合わせること。(写真; 国府町教育委員会提供, 文責小野木学芸員)



郷土館一階展示



民俗館一階 大沼家的一部分

## 大昔の生物—化石の秘密に魅せられて

### —— ひだ自然館設立の思い出 ——

ひだ自然館々長 山 腰 悟

北アルプス焼岳の西麓岐阜県吉城郡上宝村福地には豊富な化石群集を含む主に石灰岩からなる地層が分布し、福地累層と命名され、日本のみならず世界的にも有名になっております。

産出する化石は約六十種に上り、これらの化石は、4億年前にはこの地方が熱帯のサンゴ礁で、海底に密生するハチノスサンゴ、海百合、四射サンゴの間を三葉虫や直角石が泳ぎまわっていたことを物語っています。

当自然館では、私が長年にわたり収集してま

いりました標本を説明場に展示するとともに、デボン紀化石層を自然の産出状態そのままに皆様にご覧いただきますために地層見学遊歩道を特に設けております。

さて私が化石に興味をもつようになったのは戦後、この地方にも地質学者が研究にこられるようになってからであります。元東京教育大学教授の藤本治義先生や京都大学教授亀井節夫先生をはじめ多くの研究者が調査にみえました。私も時々山の案内や荷造りのおてつだいをしま



したが無学ですから、リュックとハンマーを背負ったこれらの先生方が、何の調査をなさっているのか判りません。石灰山でもさがしておられるのかとお聞きしますと、このあたりの石灰は量が少なくてダメだ。しかしこの石灰岩は4億年前に出来たもので、この中の化石を調べると昔から今までの生物の歴史が判かるのですよと詳しく説明して下さいました。ハチノスサンゴ、日石サンゴ、腕足類等と名前を教わりながら化石をながめているうちに、4億年前の生物のいぶき、4億年前の海の潮騒が聞こえてくるような気持ちになりました。私はこれ以後化石が物語る太古の歴史にとりつかれてしまったようです。

化石はいろいろな事を私たちに語りかけてくれます。例えば介類は4億年前から現在まで、ほとんど変わることなく今日まで生きて来ています。人類は誕生以来2百万年たらずですが、公害、食糧危機、核兵器、などで、自滅すらしかねない今日、介類の4億年にもわたる生命のありかたには学ぶべき点があると思います。

諸先生がたの研究により昭和35年頃までには福地の化石もすっかり有名になり本当に「地に福」のある場所になったのであります。

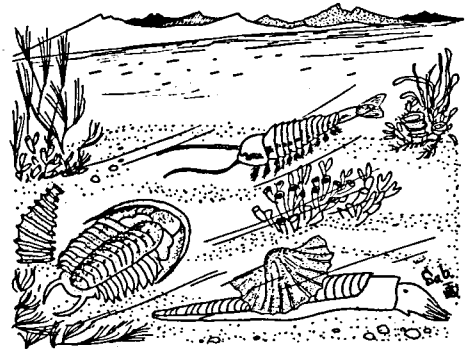
昭和37年には、デボン紀層が露出している一ノ谷流域が天然記念物に指定されました。しかしこれが災となり盗掘がさかんに行なわれるようになりました。4億年の風雪に耐え私たちに生命の歴史を語ってくれる化石が無残な姿になってゆくのみすごすことは、私にとっては非常につらいことでした。村や県にもかけあってみましたが生かす文教委では、天然記念物の

保護までは、手がまわりかねる様子で、いよいよ化石の保護は私の責任でやらねばならないと決心せざるを得ない状況となりました。

このような経緯をたどって3年前に開館したのが、当ひだ自然館でございます。

開館から未だ日も浅く経営も試行錯誤というところですよ。

当館では、見学者の皆様全員に展示館において、化石及び地史学的説明を聞いていただき、その後、裏山に露出するデボン紀層に設けました地質見学遊歩道で、生物の4億年の歴史を語る化石に直接触れていただいております。特に遊歩道につきましては、日本地学研究会の代表益富寿之助博士がその価値を認められ、機関紙「地学研究」誌上に紹介の便をはかれ、その後京大、東北大、北海道大学の合同調査、又、東京大学の調査により、世界的にまれにみるデボン紀化石含有層として、学術的にもきわめて価値の高いものであるとの評価を、されております。また説明につきましても、京大、信州大



学の学生諸君が、夏休みに無償奉仕をかって出てくれ、充実した内容を語ってくれております。

この二つは、日本ではまだ例をみない当館独自の試として、皆様から好評を得、ひそかに誇りとしているところでございます。

4億年の生命の歴史を現代の人々に体験していただき、又貴重な資料を幾世代の子孫に残してゆくため、今後も一層の努力を払ってゆきたいと思っております。どうか皆様の御協力をおねがいいたします。

# 生きた博物館と学芸員

岐阜県博物館協会学芸員, 理事  
小野木 三郎 までめ,

岐阜博協主催の第一回学芸員技術員講習  
Aも終了しました。博物館人は、  
どうあるべきなんでしょうか？



社会教育の機関 Organization

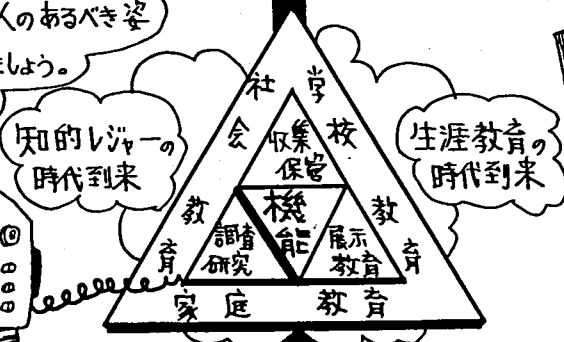
主体性・目的をもった施設・設備と人間とが、  
有機的に活動する総体であって、建物や展  
示品それだけではない。

昭和26年に、  
博物館法、すでに制定!

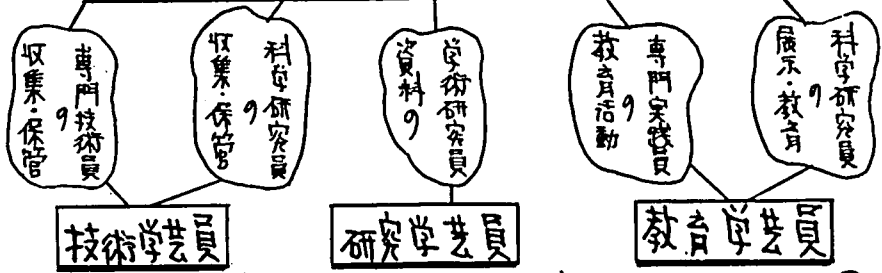
第2条  
ものを収集・保管し、展示して、教育的配慮の下に、一般公衆の利用に供し、その  
教養調査研究レクリエーション等に資するため必要な事業を行い、あわせてこの資料  
に関する調査研究をすることを目的とする機関。

第4条3、博物館に専門職員として、学芸員を置く。

みんなで、博物館人のあるべき姿  
を、じっくり考えてみましょう。  
博物館界の進歩の  
ために!



博物館機能を支えるあるべき学芸員



=の理想の細分・分組……わたしひとりの場合は、サテどうする?

さて現実の学芸員の姿は……

番人型

多芸員・雑芸員

学者型

博物館学の勉強不足、  
認識不足、  
陳列場・資料保管室・  
倉庫・見物小屋に終始。  
★一度見たら……終り。

ひとりで全てを背負い、  
広い教養・専門的研究者・  
教育者・技術者たる  
ことが要求される。

大学研究室的、学問的研究  
者としての色彩が強い。  
★愛好者・研究者の熱の博物館  
★一般公衆に親しみない。見  
苦しい。教育的研究者にな  
るために

スーパーマン的タレント性

教育的番人になるために

あそこはあの人がいるから……あの人と直接話し合いたい……  
あの人に教えてもらいたう……



生きている博物館とは、学芸員の個性・資質が致命的な要因である。！  
博物館の知的能力・活動は、学芸員の双肩にのしかかっている。！

公立大規模館園は、

学芸員の細分化・人材の確保

技術  
職員  
研究  
職員  
教育  
職員  
その他

多種多様・豊富な学芸員の  
確保なき博物館は、  
死せる建物にすぎない！

地方弱小ミニ館園は、

やはり、多芸雑芸員として、あつち  
こちをアンバラナワシ……なすむ。

Volunteer  
Museum Community

市民住民  
余暇の  
奉仕

協力、助言、奉仕

地域の  
研究者、愛好  
者、教育者等

そのためには  
博物館人の  
教育的視点

博物館が資料保管庫として眠らないために……

- ① 研究結果・情報を消化し、それをわかりやすい簡単な方法で展示説明しよう。
- ② 事実・考えを単純化し、興味ある展示を工夫し、生命あるものにしよう。
- ③ 新しい時代の要請を読みとり、その変化に応じ、その要請に答えよう。
- ④ 地域社会と接触し、地域住民の関心・興味を博物館事業につなぎとめよう。
- ⑤ 人間の性格、行動、興味の変化を追跡し、その変化に展示方法を合わせよう。
- ⑥ 展示内容、方法を改善するために、新しいアイデアを生みだそう。

学び続ける博物館人で  
あろう

Sab.画.

### 「恵那地方の鉱物」出版される

表紙に郷土館（長島コレクション陳列所）全景を配し、郷土館の設立概要のほか、長島乙吉先生遺稿三編（苗木地方の鉱物、恵那地方のおもな鉱物、東濃の鉱物産地）と長島乙吉翁の略歴をのせたB5判・P.28のタイプオフセット印刷。蛭川村教育委員会より出版。希望者は、同村教育委員会まで問合わせられたい。

### 金生山化石館問題の動き

京都大学理学部地質学鉱物学教室・大学院生西脇二一氏から、編集子へ次のような便りが寄せられました。（大意のみ）

“不況の現実の中で、楽観は許されないものの、大垣市長、教育長とも、現状のまゝで放置してはいけなことは承知しておられ、早急に大垣市としての動きをとるとのこと。東北大、京大の先生方、大学院の同僚の賛同を得て、当面の目標は、(1)赤坂の地質学諸問題の解決 (2)化石館資料の再検討 (3)散乱している資料の収集 (4)化石館を博物館としての確立 (5)教育施設としての活用策、あるいは、文部省等への科学研究費の申請、また事態の推移によっては、赤坂の考古、地理、産業、文化等の調査も含め、果ては大垣市博物館への発展などを考えている。との、力強い便りをいただきました。

西脇二一氏は、大垣市生まれで、小さい頃から金生山に親まれ、化石への興味から地質学専攻に進まれたもので、「金生山化石館」問題について、多くの協力者からの意見を期待してみえます。連絡は、京都市左京区北白川追分町京都大学理学部地質学鉱物学教室内で。

理想と現実にはギャップがあり、今後多難な前途が予想されます。ひとりでも多くの方からのご協力、援助、ご支援が望まれます。博物館人の力の結集を//

### わが自然の仲間たち 出版される。

岐阜県自然環境保全連合が協力して、中日新聞が岐阜版に連載した「わが自然の仲間たち」が、インライフとして出版されました。郷土岐阜県の動植物を、多角的な窓から扱った内容で、郷土資料として、会員諸館園、個人会員等におすすめます。本誌編集子でお取つぎしますのて希望者はご注文下さい。一部実費五百円です。

〒504 各務原市那加雲雀町34の2

小野木 三郎

### 編集後記

◎大変遅れましたが、ひだ自然館の山語館長さんにお願いたしました化石およびその産地保護にいたるまでの思い出話、ふるさとの太古の物語りへの開眼……実物を通しての知識は、社会観や人生観の基盤であることが痛感させられます。

◎「学芸技術員」認定講習会は、圧倒的多数の方の参加を得て無事終了、感激的な感想文が続々と寄せられています。これは、郷副会長の言葉にもあったように、認定証を得ることが目的でなく、あくまでもこれをキッカケに、博物館学への関心を深め広め、さらにこれから「学習し続ける」人間づくりが目的、サテ// 地方のミニ館園の博物館人は、どうあるべきか、何をなすべきか、みんなでじっくり考えていこうではありませんか。

◎昭和50年ヨ サヨウナラ// 昭和51年ヨ コニチワ// 不況になると、文化行政面に速座にしわ寄せが来るようでは、とてもとても文化国家とはいえないですね。真の経済大国たりえませぬ。諸外国からも尊敬される経済大国たるためには、文化施設にこそ力を入れること。博物館界の発展なくしては、文化県たりえないと、昭和51年もハッスルしましょう。（小野木学芸員）